

平成4年(1992年) 6月16日(火曜日)

世界日報

国際ハイウエー、韓中も期待

日 韓
トンネル
2期工事、1200メートルまで掘削

国際シンポ

日本、韓国、中国の代表者が参加し、国際ハイウエー、日韓トンネルの意義、実現性などについて話し合う国際シンポジウム「東北アジアの開発と国際ハイウエー・日韓トンネルの役割」(国際ハイウエープロジェクト、日韓トンネル研究会共催)が十五日、東京

都千代田区のホテルで開催された。国際ハイウエー構想は世界基督教統一神霊協会(統一教会)の文鮮明師が提唱したもの。韓国、中国の代表者は、さまざまな困難な問題を指摘しながらも、同構想実現への期待を表明した。現在、佐賀県で掘削中の日韓トンネルのパ

イロットトンネルは四百三十メートルだが、今後第二期工事として千二百メートルまで掘り進める予定。基調講演で、韓国代表の成百詮・韓国海外技術公社社長は、まず同国の交通事情、道路事情の厳しさを説明した。同氏は、六七年以降、韓国建設省で課長、局

長を歴任し、道路局長も務めていた人物。「南北間を連結する幹線道路網計画は、南北統一による輸送需の増加まで考慮して推進すべきだ」と語り、大陸と日本を結ぶ日韓トンネル、国際ハイウエーの実現には、韓国、北朝鮮の位置づけが重要になると主張し

た。中国国際友好連絡会第一副秘書長兼常務理事の蘭曉石氏は、「中国の商品経済をさらに発展させ、農産品の流通を促進するために、道路の改善が切実な課題だ。国際ハイウエーの実現には自信を持っている」と述べ、同構想への歓迎の意を表明した。また、



日韓中・国際シンポジウムで日韓トンネルの現状について講演する高橋彦治地下工事コンサルタント顧問＝15日、東京都千代田区のホテルで

「王震・国家副主席も(国

中国側の期待を表明した。

また同氏は、同構想が「天

胆で、普遍性があり、人類の発展と平和に極めて大きく貢献するもの」と評価した。同氏は、王副主席に近い中国政府の局長クラスの人物で、今回の講演は中国の公式見解ともいえる。中国のこの構想にける期待を表している。

成氏は、基調講演後のディスカッションで、「国際ハイウエーの趣旨には賛成賛成するだろう。しかし、実現するまでの困難は数多くある」としたうえで、現在のルート決定について、「韓国の意思が反映されていなく、(韓日)コンセンサスのない決定は問題がある」と語った。また

日本と韓国の技術格差に言

及し、「日本の技術を押しつけるのは問題。韓国への技術移転がなくては、問題解決は不可能」と日本と韓国の間の認識の差を強調した。

地下工事コンサルタント顧問の高橋彦治元鉄道技術研究所長は、「道路交通については、今後は環境に対する問題を考慮していかねばならない」と発言。今後の課題を提起した。

コ・デ・ネーターを務めた大塚茂・日本工業技術振興協会理事は、成氏の発言に言及し、「日韓の技術交換、交流の場も必要となる」と、日韓交流の必要性を強調した。